

醇風地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年7月6日(水) 19:00~20:45

2 会 場 醇風地区公民館

3 出席者 地元出席者 27名

市側出席者 14名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、綱田都市整備部長、澤田環境下水道部長、渡邊秘書課長

<事務局>福島協働推進課長(司会)、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、有本協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局長) ※チラシに基づき説明

5 第10次総合計画についての説明

(企画推進部長) ※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 出合橋の拡幅・補強または歩道橋の新設について

<地域課題>

出合橋は醇風小学校児童276名のうち約半数の児童と西中学校・北中学校、高校生の通学路となっております。特に7時から8時半頃の通学時間帯の車の交通量が多くなっています。また、近隣住民の通勤、袋川兩岸にあるスーパーへの買い物等、多くの住民が出合橋を生活のため使用しています。しかし、出合橋は幅員が狭く、対向車のすれ違いは困難であり、歩行者は常に危険にさらされています。朝の交通量の多い時や、トラック等の大型自動車の通行、雨天や積雪時等には、車と歩行者が接触する危険性はさらに高まり、非常に危険きわまりない状況です。出合橋は鳥取大火直後に建造されてから60年以上経過し、老朽化も進行しています。歩行者(特に子どもやお年寄り)の安全確保と交通事故の未然防止のために、出合橋の拡幅・補強または歩道橋(特に人道橋)の新設を切に要望します。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

本市では、橋梁修繕計画(長寿命化修繕計画)を策定し、計画的に修繕を実施しています。出合橋は、架橋後62年経過しています。見た目は傷んでいるようにみえますが、まだ大丈夫な状態であり、補修(補強)を実施し当面使い続けていく予定です。しかしながら、将来出合橋架替の段階で、歩道整備の必要性について検討は必要だと考えています。

歩行者の安全を確保するためには橋梁を拡幅し、歩道と車道を分離することが考えられ

ます。しかし、建設当時の資料が残っておらず構造上の安全確認ができないため、実施困難です。

人と車が共存する中、安全を確保するためには、車両通行形態を通勤・通学時間帯の一方通行とするなど、交通規制によりソフト的な対応とするのが一番良い方法であると考えています。併せて、視覚で歩行者と車を分離する方法として、歩道部を緑色のカラー舗装をする方法もあります。

今後皆様に協議し進めたいと考えています。

(地区会長)

出合橋のこの問題は、平成18年5月25日付で交通安全協会醇風支部が、当時の市長に陳情要望をしているようです。それを受け、その年の地域づくり懇談会と、さらには平成20年、24年、26年、そして本日で、通算10年をかけて要望しています。いろいろな意味で、醇風地区にとって喫緊の非常に大切な柱という思いがしています。鳥取市の行政面の条件もあるだろうと思いますが、10年も経過しているのだから何らかの方向づけをいただきたい、あるいは見直しをいただきたいというのが本音です。

この出合橋は、いわゆる川外の住民の方々の大切な生活道路だと言えます。特に小学生、中学生、高校生が、朝晩の通学に利用しています。醇風小学校の児童のうち、川外の向こうに在住している83名は、この橋を渡って登下校しています。また、西中学校、北中学校、西中学校は有門橋を利用するようになっているようですが、北中学校の生徒は、相当数出合橋を通行します。西高等学校、敬愛高等学校の生徒もかなりの数が出合橋を通行しています。大人も通勤に使いますし、在宅の高齢者もその日の買い物に出て来られるのが日常です。そういった意味で、出合橋は大切な生活道路だと言ってよいと思います。

そんな中で、問題点がいくつかあります。何ととっても、橋が古い上に交通量が非常に多いです。出合橋は昭和29年3月に竣工され、本年で62年が経過しています。人の往来も多いです。次に、全幅5m70cmのうち、車道部が5mで歩道部が70cmと、非常に狭いです。狭いにもかかわらず、交通量は非常に多いのです。仕切られた歩道部分を通行するので、歩行者にとっては非常に貴重な通路だと思います。また、この歩道部分の白線がいつ



も消えかかっています。市役所ではなく警察の管轄かもしれませんが、とにかく色が薄い
です。これだけ狭い橋なら、せめてこの2本の白線ぐらいは常時きちんと設けてもらうこ
とが、当然必要ではないかと思えます。

そんな中、平成26年7月の地域づくり懇談会を受け、安全ポールを設置してもらいま
した。それまでは何もありませんでした。朝晩通う児童に「ここで待機するように」と指
導しないと、やはり子どもですから、どうしてもはみ出す嫌いがあります。そういうこと
もあり、カラーポールができてから一応の安心感は得られています。さらに、交通安全協
会に白線も引いてもらいました。白線と待機線、つまりカラーポールよりも下げて待機線
を作ってもらっています。そうしないと、大型車が右折時にカラーポールすれすれに走行
するため、危険なのです。加えてゾーン30ができ、出合橋を取り巻く周辺の環境につ
いては何らかの整備ができたのではないかと理解しています。

朝は交通指導員さんが立ってくださっています。10年の間、毎朝7時5分ぐらいにな
ると出てこられます。口数の少ない方ですが、きちんと指導していただいています。保護
者の方も交代で出ておられます。

しかし、幅が70cmしかない歩道
部を通行しなければならないため、信
号待ちのための自動車が停車すると、
危険な状態です。また、橋の上だけが
両方通行で、その他は一方通行になっ
ているため、相生町方面へ向かう自動
車と材木町方面へ向かう自動車がすれ
違う時も、歩行者は非常に危険です。

さらに、平成18年以降、大型車の
通行が非常に増えています。近くのシ
ョッピングセンターに材料を搬入する
自動車だと思いますが、ぎりぎりを右
折していきます。こういう実情をよく
理解してほしいと思えます。

繰り返しますが、出合橋は、多くの
人が通勤、通学、買い物等に使用され
る貴重な生活道路です。しかし橋の幅
員は狭く危ないです。平成18年から、
実情を市に説明して理解を仰いでおり、
カラーポールを設置したりゾーン30
に指定するなど、橋の周りはいろいろ

整備してもらいました。しかし、橋の上のことは平成18年以降何にもされていません。
私はそう思います。地域づくり懇談会の議事録を読むと、橋梁は健全度Ⅲで、見た目は古
いが頑丈だといった説明もありました。橋の欄干から下のことは専門家の分野になると思
いますが、橋の上について何の手当てもないということ、あえて私は言いたいと思いま
す。せめて白線ぐらいは、消えかかったらすぐに引いてほしいです。



(都市整備部長)

鳥取市では、現在1, 300余りの市道橋を管理しています。そういった中で、補修を行うことにより、現在ある橋の寿命を可能な限り延ばそうとのことで、平成25年に橋梁の長寿命化修繕計画を策定しました。

出合橋は、架橋されてから62年が経過しています。修繕計画の中で、現地の調査等を実施した結果、健全度Ⅲとの結果でした。健全度Ⅲとは、「見た目は傷んでいるように見えるが、まだ大丈夫な状態」です。併せて、平成10年には、地震発生時に橋自体が落下しないように「落下防止装置」を取り付けた経緯もあります。

このような状況から、出合橋については平成31年度に修繕、補強を実施し、当面は可能な限り使用し続けていく計画を立てています。

歩行者等の安全を確保するためには、橋自体を拡幅するといった考え方もあるかと思いますが、橋が架けられたのが昭和29年であり、当時の詳細な図面や資料が残っていません。拡幅すると橋の重量等が新たにかかるということがあり、今の構造のままで橋の上部だけを拡幅した場合に、橋梁全体の安全性を確保できるかどうか確認できないとのことで、現時点では拡幅は困難と考えています。

歩道橋の新設についても、現在1, 300余りある橋を修繕して使い続けることに重点的に取り組んでいるため、現時点では困難な状況です。

ゾーン30については、醇風小学校周辺は、鳥取市で3例目、中心市街地では2例目として、平成27年に指定されました。

人と車が共存する中で安全を確保していくため、通勤時間帯や通学時間帯の一方通行といった車の通行形態、あるいは、今は国道から出合橋に直進してくる車が出合橋の交差点で右折できますが、これを時間帯によって右折禁止にするといった交通処理などのソフト的な対応が一番良い方法ではないかと、現時点では考えているところです。

先ほど、会長から「白線が消えかかっている」というご指摘をいただきました。ゾーン30の中でも実施していますが、現在70cm幅になっている路肩部分をもう少し広げるような形で白線と緑色の安全帯の舗装を施すといったことも、ソフト的な対応と併せて実施することにより、安全性を確保できるのではないかと考えています。こういった取り組みについては、また地域の皆様と協議させていただきたいと思います。また、白線が消えかかっている件については、修繕や補修も対応していきたいと思っています。

出合橋の右岸上流側には歩道と車道を区切るブロックがなかったため、平成27年度に歩車道境界ブロックを設置し、歩行者と自動車を分離する改良を実施しました。

また、右岸下流側には右折車両の巻き込みを防止するため、暫定的にラバーポールを設置しているところであり、28年度には、上流側と同じように歩車道境界ブロックを設置予定です。



(担当課補足：協働推進課)

所管となる鳥取警察署に確認したところ、平成28年度中に実施予定とのこと。

(地元意見)

これは、10年前から要望している案件です。しかし、今日の市からの回答を読んでも、前向きな検討は全くされていません。白線を少し拡げる、またカラーコーンで安全を確保するとのことですが、通学路としての子どもの安全を全く考えていないと思います。

橋を一方通行にしてはどうかという説明もありましたが、とんでもありません。出合橋から市役所側は一方通行で、反対車線は西向きに一方通行ですので、出合橋を渡らなければ市役所方面には行けません。出合橋が通行できなくなるなら、湯所橋や有門橋まで行かなければなりません。地区公民館にも車では行けなくなります。

とにかく、基本的な「交通安全」という姿勢が全く感じられません。10年間、検討していると言ってきていますが、昨年、ラインを引き、カラーポールを設置したというだけで、10年前と何も変わっていません。

橋はまだ耐久性があるとのこと、いつこれが本当に架け替えとかいうことはどこにも記載されていません。平成31年がどうか言っているが、そんなものは待てません。下流側の両端に杭を2本ずつ打ち込んで橋脚を乗せれば、歩道橋ぐらい簡単にできるのではないですか。特に雪が降ったらあの白線地帯がどうなるか見てください。自動車で雪が押されて欄干側に寄るから、子どもは歩くスペースがないのです。だから車道を歩いています。これだけ歩行者が多くてこんなに危険な橋が、鳥取市内にあるのでしょうか。実態はどうなのですか。まして62年も経過しているのです。あと二、三十年もたせるつもりですか。

歩道橋を新設してください。今の建築技術を考えれば、歩道橋新設はそんなに大した費用はかからないと思います。もうちょっと前向きに検討してほしいです。

(深澤市長)

10年前の陳情から始まり、また地域づくり懇談会でも何度かテーマとして取り上げていただいています。何も検討していないということですが、検討はしてきています。

現在の橋をもう少し拡幅できないかということも検討してみましたが、先ほど申し上げたように、建設当時の詳しい資料が残っていません。下部の構造がはっきりしないと、拡幅して強度が耐えられるかどうかははっきりしないため、拡幅は難しいと考えています。

歩道橋についても、どれくらいの規模か、経費がどの程度必要か、可能性としてどのようなものがあるか、こういうことも内部では検討はしています。

現在の橋は健全度Ⅲですが、まだまだしっかりした橋であるという判断もしていますので、当面は、でき得るソフト対策をさせていただくことが、現実に我々がまずさせていただくべきことではないか、カラー舗装等が現実の対応策としてまず急がれるのではないかということです。検討はしてきていますので、そのことだけのご理解いただきたいと思えます。

(地元意見)

検討すると言うが、具体的にどう設計したのですか。

(深澤市長)

設計はまだしていません。

ソフト対策として、まずでき得ること、やるべきことはこういったことではないか、という提案をさせていただいています。

(地元意見)

要は、歩道橋を新しく造ってくださいということに対して、一つも答えがないということです。

(地元意見)

平成26年の地域づくり懇談会で、市長自身が「張り出し歩道について何とかできないかということで、内部で検討もした。ただ、強度計算ができないということで、我々も困っているのが実情だ。」と発言しています。その確証を求めるような資料やデータ、あるいは専門家に依頼して実情を検討していただくようなことは難しいですか。

(深澤市長)

橋の拡幅の手法としての張り出しということですが、下部の構造について建設当時の資料が残っていません。張り出しをして橋の構造上の強度が耐えられるものかどうかの確証が得られないので、「難しい」という回答をさせていただいたところです。まずは、安全性が一番大事です。

歩道もいろいろな形や構造のものがありますので、例えばそれがどれぐらいの経費が必要で、どういったものがあるのかということは、内部では検討しています。設計委託し経費を投入して、具体的な比較考量するまでには至っていませんが、出合橋を何とかしなければならぬ、どんな方法があるのかということは、我々としてもいろいろな検討を行っているということはお伝えさせていただきたいと思います。

(都市整備部長)

橋梁の専門のコンサルタント等には相談をかけました。しかし既存の資料がないことと、特に基礎等下部の状況が不確定な状況であり、その状況で適切な設計をすることもできないため、「現状では拡幅して安全な構造の橋梁は困難」と判断され、回答をいただいた経緯があります。

(地元意見)

強度はどうでもよいです。要は、歩道橋をつけていただきたいということです。検討はしているとの回答ですが、どう検討したのかという説明がありません。例えば、出合橋以外に歩道橋を設置した所があると思います。その時の費用を参考にして概算で検討したのであれば、そういった説明があってもよいのではないですか。

拡幅についても、前回の地域づくり懇談会では、架け替えになれば仮橋を設置しなければならず、高額のコストが必要だと説明があったので、歩行者さえ通ればよいので、新しい橋を設置する間は仮橋はいらないと言いましたが、それに対する返事はありません。

また、今日の回答で、出合橋の歩道の白線を拡げて車道を狭くする話がありました。車道を狭くして何になるのですか。

時間帯の一方通行についても、そんな後退する話はやめてください。どれだけ不便になるか分かっているのですか。机の上で物事を考えず、現場を見て回答してください。冬の状況を知っていますか。冬の状況を見ずに物事を決めないでください。こんな白線を引くより、雪が1cmでも降ったら完全に除雪してください。それが安全に対する配慮ではありませんか。

(地元意見)

私は、出合橋の西側に安全パトロールとして立っています。小学生が帰る時には、いつもいます。両方向から自動車があると、自動車が歩行者の白線をはみ出して欄干側に寄るため、歩道部分がないものになってしまいます。子どもは全然通行できません。もしも子どもがいたら交通事故です。だから、子どもが通行するときは気を付けて指導しています。

子どもは歩道を通るように指導しているのでよいのですが、一般の人に関してはそうはいきません。一般の人が歩行している時は、自動車は避けて走行します。すると、なお狭くなってしまい、子どもが通行する部分はありません。

そのような状況なのに、歩道部分を拡げるのは、まずだめだと思います。

(都市整備部長)

緑色のカラー舗装なども一つの提案ですので、このような提案が現実的かどうかも踏まえ、まずは地元の皆様と現地で相談させていただければと考えています。

(地元意見)

カラー舗装をしたら、何が良くなるのですか。

(都市整備部長)

歩行者にとっては、自分が歩く所が明確にされることと併せ、自動車に対しても、歩行者が専用で通行する「歩行者帯」であることを明示するという両方の意味があります。少しでも安全性を高めていきたいということでの一つの提案です。

(地元意見)

平成23年に大雨が降り、電話ボックスの下に水路が出て、河原側が土砂でかなりえぐれました。その時に大森神社側の橋脚の下を見たら土がえぐれていたのが、道路課に行き、ひょっとしたら橋が根こそぎ持っていられる可能性があるのを確認してほしいと言ったところ、水門側はとりあえず応急処置しますとのことでしたが、今でもそのままになっています。

(都市整備部長)

せっかく通報をいただいたのに、そのままになっているとのことで、申し訳ありませんでした。後日現地を確認させていただき、早急にしかるべき対応をとりたいと思います。

(担当課補足：道路課)

出合橋下の袋川左岸橋脚足元付近の低水護岸の洗掘状況について、袋川の管理者である鳥取県土事務所維持管理課に状況を伝え、確認してもらったところ、「構造上問題なく、現状のまま様子を見る」とのことです。

(地元意見)

平成31年に出合橋の補修を行う予定という記録がありますが、補修の内容はどのようなことですか。

(都市整備部長)

橋梁については、5年に一度、点検を実施することになっており、点検の際に表面にクラックが発生していれば補修するといったことを積み重ねることによって、橋梁自体の寿命を持たせようということです。平成31年時点の点検も、その時にどのような補修が必要かを見極めながら修繕をしていくと思います。

(地元意見)

点検を行うのは橋の下ですか。橋の表面ですか。

(都市整備部長)

表面も含めて行います。

(地元意見)

出合橋の通行をいかに安全なものにするかということでこの課題を提出しているのです。補修するだの塗装するだのということを尋ねているのではありませんよ。

歩道橋を造ってください。

(地元意見)

もう10年も我慢しているのです。新しく架け替えるという話になれば、また20年、30年後でしょう。もうせめて来年か再来年には歩道橋を造ってくださいよ。出合橋の交通安全にはもうそれしかないのですよ。古い橋だとか凶面があるとかなないとか、そんなことは私達にとってはどうでもよいことです。交通安全をいかに確保してくれるかですよ。橋がつかないのなら、新しい歩道橋を造ってくださいと言っているのです。

(都市整備部長)

ハード面の整備が皆様のご要望だということは重々承知しています。ただ、市としては現在ある橋を上手に使っていくということで、橋の修繕等を行っています。その中で、ハ

一丁面の整備のみではなく、緑の舗装や交通規制なども併せて検討することで、少しでも安全性を高めることに努力していきたいと考えています。

(地元意見)

一つアイデアですが、出合橋に歩道橋をつけるのではなく、自転車を引いた歩行者や雨や雪の日に傘をさした子どもが渡れる程度の幅の橋を設置すると、どの程度の費用がかかりますか。出合橋は、橋の上だけが時間制限がありません。出合橋の上で自動車がすれ違う時に、大型車が来たらとても危険です。

一方通行という提案は生活道路であるため難しいとなれば、材木町側には信号機もあるので、歩行者だけでも安全に渡れる方法を検討してはどうでしょうか。

(都市整備部長)

前回の地域づくり懇談会でも、歩道橋の概算額を報告させていただいています。その時は、少し前の検討で出てきた数字として、概算で7,700万円が必要とご報告しています。現在は資材等も高騰してきており、現状では7,700万円を大きく上回るような額が必要になってくるだろうと考えています。

(地元意見)

人の命とどちらが大切ですか。ラバーポールを3本つけてもらいましたが、ショートカットしてまたいでいく自動車があるので、既に傷だらけになっていますよ。

(地元意見)

ラバーポールを設置するまでは、子どもは並んでいて車にひかれそうになったのですよ。

(地元意見)

4tトラックは、前タイヤは通りますが、後ろタイヤはえぐってきます。子どもの足元を通っていくわけです。高齢者であれば逃げられないと思います。実際にこういう問題があるのだから、机上で計算しないで現場を見てください。交通指導員達は現場で見られます。7,700万円必要だと言うが、2年先になれば消費税が10%に上がるでしょう。いつまで経っても「できないできない」になってしまうのだから、してくださいよ。

(地元意見)

こんな橋はありませんよ。歩道橋を造ってください。それしかないのですよ。

(地元意見)

私達が求めているのは、今の橋を補強することではありません。補強して補修して、線を引いて緑色に塗装する、そういう問題ではないのです。現状の橋が危険だから、これに代わるものと言っているのです。予算的に架け替えができないのであれば、日進小学校の所についている橋は大して使っていないので、あの橋をここに付けてください。

緑色のカラー舗装をするとのことですが、色を塗ったところで橋の幅は変わりません。

白線を引いても車道が狭くなるだけです。普通車の車幅は1m70cmあります。4t車の保冷車は雪が降るとすれ違えないのです。その時、子どもは欄干の所に立っているのですよ。

そういう現状を踏まえて、今の橋をどうするかという話ではなく、日進小学校の所の橋をここに付けてくださいよ。

(地元意見)

許可が通るのであれば歩道橋を造るのが一番よいのではないですか。出合橋ができた60数年前の自動車は小型だったでしょうが、今の自動車は大きくなっているから当然白線も違ってきます。

(深澤市長)

多くのご意見をいただく中で、今ここで皆様のご要望にお応えできるような回答をすることが難しいのですが、しっかり受け止めさせていただきたいと思います。我々も、どのような工法の歩道が可能なのか、あるいは上流側と下流側のどちらがよいのかなど内部で検討はしていますので、よろしくお願いします。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

片原五丁目1区、片原五丁目2区、片原五丁目3区、いわゆる旧下横、旧下魚、鹿野町から、電柱、電線の地中化促進要望が上がっています。

地中化は現在片原四丁目までで途切れているので、県道田島片原線と県道西町鳥取停車場線交差点、要するに片原四丁目の信号から有門橋までの電柱、電線の地中化の促進を要望します。昨今は自然災害が非常に多く、台風や地震、風水害によって電線が切れるような事故もあると思います。電柱の倒壊やトランスの落下等も想定できると思います。また、信号機が見えにくいということもあります。

(都市整備部長)

こちらは県道になりますので、鹿野街道から有門橋までの電線地中化について県に現時点のお考えを確認しています。

県によれば、現在県下で電線類地中化は実施しておらず、幅員が狭く交通渋滞等が発生するような道路の拡幅等を優先しておられるようです。

また、電線の地中化は、例えば1m当たり100万円といった高額な費用が必要になるようです。これが道路の両側に歩道があれば、1m200万円ということにもなり、現時点では、まず交通渋滞解消を目指して拡幅改良等を優先して実施されているということのようです。

ただ、災害発生時に電柱の倒壊などにより道路が通行できないことも考えられるため、緊急輸送路等の重要な県道については、今後、優先的に地中化を検討していく方針だということも併せて伺っています。

また、無電柱化事業につきましては、国土の強靱化や景観の形成等の観点から、国会議

員レベルでの推進法といったものを制定する動きがあると聞いています。そんな中、全国の自治体においても、平成27年10月に「無電柱化を推進する市町村長の会」が設立されています。

長期的な視点で、ということもありますが、当該区間についても県に対して継続して検討していただくよう、市としても要望を行っていきたいと考えています。

(地元意見)

今日の市長や部長の話はしっかり聞かせてもらいました。

ある総会に出席して感じましたが、今の鳥取県と鳥取市は、情報交換なりお願いごとなどのパイプが太いように思います。市の担当者が鳥取県に伝えた事が、県では1週間で第2庁舎の所長にまで伝わっていました。

それに対して、電柱の話は平成24年から本年で4年が経過しています。当初の回答文は、「予算がないので今はできない」という2行程度のものでした。今日の回答を聞くと、都市整備部では鳥取県とこの件について話をしているようなので、今、読まれた鳥取県のやり取りの記録を地区公民館に送ってください。以前のような2行だけの省略した回答ではなくその記録をください。どの会でも、議事録が欲しいと言えば省略せずに全部出ます。「検討」ということだったので今すぐ実現できないことは分かりましたので、いつそれを鳥取県と話したのか、記録をもらったら鳥取県の担当者に確かめます。今日の部長の発言はかすかに記憶に残っているので、発言した内容をつつかないよう、早急に送ってください。

(都市整備部長)

無電柱化の関係ですね。承知しました。

(担当課補足：都市企画課)

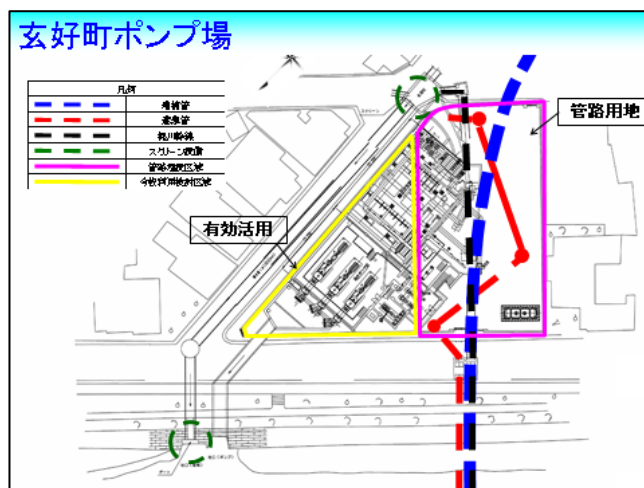
協働推進課を通して県への聞き取り状況資料を送付しました。

(地元意見)

玄好町のポンプ場はもう2年前に閉鎖されて、役目は終えていると思います。市の所有物ではありますが、地区住民は、このポンプ場がどうなるのかと常々思っています。あれだけのスペースがあれば地区体育館が建てられるのではないかという意見もありますし、防災の拠点施設として、集会所のような建物も建てられるのではないかという声も挙がっています。醇風地区は川内と川外に分かれており、災害発生時の避難所は、川内は醇風小学校と醇風地区公民館、川外は西中学校となっています。しかし、地区の人口を考えると、避難所が3つしかないのは不合理だと思います。6,000名余りの人口があることを考えると、避難所のようなものも必要ではないかと思います。

(環境下水道部長)

玄好町ポンプ場の下には、直径2 mある増補管と、直径50 cmから1.1 mある遮集管という管が埋設されています。また、袋川の左岸側からは、梶川幹線という下水管がきていて、ポンプ場跡地の中に埋設されています。これらの管の上は、下水道管の管理用地としての機能を持たせています。この管理用地として約1,000㎡が必要と考えていますので、有効活用できるのは残りの三角形の部分となります。このため、地区体育館などの施設の建設はなかなか難しいと思います。



このため、地区体育館などの施設の建設はなかなか難しいと思います。

集会施設を、というご意見もありましたが、この玄好町ポンプ場用地は下水道施設として用地交渉や用地買収をしたものですので、市としては下水道用地としての活用を検討しています。現時点では、災害時のトイレの確保を目的に、「マンホールトイレ」のためのマンホール口と簡易トイレを備蓄する倉庫の用地として検討しています。南町には、38個のマンホールトイレに対応したマンホール口ができていますが、玄好町ポンプ場跡地には、40個程度のマンホール口を作ることを予定しています。熊本地震でも、上水道だけではなくトイレの確保もかなり問題になっていると聞いており、このポンプ場跡地を防災拠点として活用したいと考えているところです。

8 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

予定時間を超過して非常に熱心にご議論いただきましたことに、まずもって心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

この出合橋の歩道橋についても、我々はしっかり受け止めさせていただいており、何とか実現できないかと都市整備部を中心に検討を重ねているところです。市内に1,300余りある橋梁はいずれも老朽化しており、これを可能な限り何とかもたせていくということを、将来を見据えて考えていかなければなりません。これも大切な視点ですし、交通安全に留意して、しっかり取り組んでいくことも大変大切なことです。引き続き検討してまいりますと考えています。もう少し具体的に研究してみたいと思っています。

いろいろなご意見をいただきました。これから一つずつ、着実に実現に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

長時間、懇談会にご参加いただきご意見等をいただきましたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。